

2018年 ハローアルソン・フィリピン医療ボランティア 活動報告

日時 : 2018年2月8日~11日

場所 : フィリピン共和国 マニラ市 近郊スラム

参加者

| | | | |
|--------|-----|--------|-----|
| ・医師 | 1名 | ・学校教員 | 2名 |
| ・歯科医師 | 20名 | ・一般参加者 | 10名 |
| ・薬剤師 | 3名 | ・高校生 | 46名 |
| ・看護師 | 4名 | ・中学生 | 4名 |
| ・歯科衛生士 | 14名 | | |
| ・歯科技工士 | 4名 | | |
| ・歯科助手 | 6名 | | |

現地参加者・・・114名

現地通訳・・・20名

現地スタッフ・・・約100名

総勢・・・約234名

物資配布総数・・・580名（歯ブラシ10本・タオル2枚・石鹸2個 お米2キロ）

2月8日 活動初日 物資配布活動 「719 Zone 78 District 5 Venue」

物資配布人数・・・80名

・例年、空港に到着するとホテル周辺のスラムで物資配布の活動をおこないます。しかし今回はA・B 2班に分かれ、A班は高校生を中心とした物資配布チーム、B班は大人を中心とした器材準備チームとなって別々の活動を行いました。これは、現在フィリピン政府の政策によりマニラ市内の治安向上維持のために以前は多数存在していた数千人単位の大きなスラムを解体したことにより大規模な支援を必要とする地域少なくなったからです。しかしそれは住民たちの生活が向上したのではなく、もともと地方から職を求めてマニラにやってきた人たちが結局職を見つけることができずスラムに住み着いて作った集落が強制的に再度地方へ追いやられただけに過ぎません。

私たちが訪れたエリアはマニラ市内のほぼ中心部に位置し、近くには動物園もあります。周囲は沢山のビルに囲まれ一見とても華やかに見えますが、一步路地に入ると無数の電線が蔓延る都会のスラムならではの風景が見えてきます。

ここでは80名のお年寄りたちに上記の物資を高校生たちが直接手渡すことができました。

2月9日 活動2日目 医療奉仕活動初日 「San Rafael Balut : Tondo」

患者人数・・・610名

・この地域は「トンド」と呼ばれています。ここは1980年代後半「フィリピンの貧困の象徴」と言われたゴミの収集所「スモーカー・マウンテン」が存在していた場所です。

フィリピンでは日本のようなゴミの焼却システムはなく、ここには毎日マニラ市内から数千トンのゴミが運ばれ埋め立てられていました。そしてそのゴミの中からお金に換金できるものを拾い生活をしている人々を「スカベンジャー」と呼び、1995年に閉鎖されるまで数万人がここで生活をしていました。現在はパヤタス地区に移動となりましたが、今でも多くのスカベンジャーが住んでおり、川沿いには無数のスラムの住居が存在しています。

私たちがこの地域で活動するのは今回で3回目となります。バスの窓から久しぶりに見る光景は数年前と何も変わらず、マニラ市内の治安が向上されたことによって起きた貧困の歪はこうして郊外のスラムに更なる貧困を虐げているようにも思えます。

この地域には約4万人の人たちが生活をしています。住民たちは主に工場勤務が多く一日の収入は約300ペソ（日本円約620円）で食事は主に昼と夜の2回です。就学率は小学校は無料のためほぼ100%ですが中学校は有料のため約60%ほどです。また、この地域で病気になった場合は無料の診療所はあるものの、薬は在庫次第でそのほとんどが十分に行きわたることはありません。特に歯科治療に関しては非常に高価で診療所も少なく、痛みがある場合は極限まで我慢をし、最後は抜歯となってしまいます。

ここではスラムの中心に位置する教会を治療会場として使わせていただきました。信仰心の厚いフィリピンの人たちの神聖な場所で初めて行われる医療ボランティアに沢山の人が列をなしています。

事前に現地スタッフがこの地域で最も貧しい家庭を調査しその家族から一人だけ治療を受けることができる「チケット」を配布しています。その為大きな混乱はありませんが時間や人数、公平性の問題から全ての人たちを治療することはできません。

各担当ブースに分か現地統括責任者今西先生の号令の下治療が始まりました。

高校生たちも初めて見る光景に戸惑いながらも一生懸命活動をしていました。

2月10日 医療奉仕活動最終日 「Brgy .Pineda .Pasig City」

患者人数・・・967名

・マニラ市内は世界的にみても大変渋滞が多い街です。そのためこの地域に行くには普段は1時間半以上移動にかかってしまいます。しかし、マニラ・ロータリークラブと地元警察が協力をしてくださり、白バイ4台と救急車で私たちのバスを先導してくれました。早朝からマニラ市内にサイレンが鳴り響きます。全ての車やバス、ジブニーを移動させ時には反対車線や交差点を全て止め、私たちのバスを最優先に通過させてくれました。そのおかげで本来ならば1時間以上かかるエリアもわずか30分ほどで到着し、予定時間よりはるかに早く準備が整い治療が開始されました。

・この地域は川沿いにマカティと呼ばれるフィリピン第二の商業都市に近接しています。大きな川に分断され向こう側には沢山の高層ビルが立ち並び貧富の差が歴然と分かるエリアです。このスラムはもともと山を切り開いて作られたため、スラムの住居内は大変入り組んでおり、坂道や曲道も複雑な形態をしています。このエリアには約2万人の人たちが生活をしています。ここはマカティに近いので住民たちは工場や建設現場の日雇いの仕事が多くある程度の職に就くことは可能です。しかし、その収入の差は大きく1か月に500ペソ（日本円で1200円）～18,000ペソ（日本円で37,000円）ほどあります。食事もスラムに住む人たちは一日2食です。スラムに住む人たちの多くはトライシクル（バイクタクシー）の運転手が多く収入は一日300ペソです。しかし、このオートバイを購入し自分で稼げる人たちはほとんどおらず、オートバイをレンタルします。そのレンタル料は1日100ペソ。ガソリン代が一日100ペソ。そして残りが収

入となるため、一日働いて手元に残るのは100ペソ（日本円で220円）程度しかありません。

スラムの人たちがもし歯が痛くなった場合どうするでしょうか。この地域には無料の歯科クリニックがないために治療を受けることはできません。また、痛み止めは高価なために漢方薬のようなハーブティを飲んで我慢をするそうです。

地区のリーダーは私たちの活動を本当に喜んでくれました。生まれて初めて歯科治療にかかる人も多く、初めて虫歯の存在や痛みの原因を知った方も沢山いらっしゃいました。

ここでは地域内の小学校にあるバスケットコートを治療会場としました。昨日同様、今回の活動は大変「抜歯」が多いのが特徴です。それはそれだけ貧困状況が深刻であり重度な症状の患者さん等が多いことを意味しています。また、義歯の作製を希望する方も多く、例え抜歯をしたとしても一つの義歯を作るのに数千ペソ必要となるためスラムの人たちにとって義歯は大変貴重なものとなっています。しかし、私たちの活動にも限界があります。特に義歯制作ブースでは4人の歯科技工士が昼食の時間も惜しみながら一生懸命制作してくれました。

2月11日 活動最終日 物資配布活動 「Kaingen Kawit . Cavite」

物資配布人数・・・500名

・この地域は私たちが10年以上支援させて頂いているエリアで私たちの数十年来の友人でもあり日本からの物資を大切に保管し、活動中は現地通訳として長年支えて下さるポンセ家の人達が住むエリアです。古くから地元の名士でもあるポンセ家の人たちはいつも周囲のスラムの人たちや刑務所や災害地域を訪れ物資や食料の支援をされています。今回、同じ地域内の新たなバラングイ（集落）の人たち500名に皆さんから頂いた物資を届けて参りました。

この地域には約3,000人が住んでいます。就学率はわずか5～10%で小学校までで、親に仕事がないために中学校以上に進学することもほとんどいません。住民たちは主に漁業や建設現場などで生計を立てていますが、一日の収入は約300ペソ（日本円で約660円）程度です。食事は1日1回～2回で私たちが支援した物資、特に石鹸などはとても貴重なものだそうです。

ここでは高校生たちが最後の物資配布をしました。たくさんの人たちが長蛇の列を作っています。高校生たちは日本から皆さんに支援していただいた物資を一人ひとり丁寧に笑顔で手渡してくれました。私は一人物資を抱いた女性に尋ねました。「今日もらったお米はどうするの？」彼女は嬉しそうに「もちろん今日食べるわ。このお米はとても美味しそう。」私は尋ねました。「この石鹸は？」「今日すぐに子供たちの

体を洗ってあげるわ。」彼女は満面の笑みを浮かべながら「来年も必ず来てね。」と言いきり残したスラムに帰って行きました。

新しい活動「シャワー・アクティビティ」

・今年から新たな取り組みとして5歳～10歳の子供たちを対象に「シャワー・アクティビティ」をおこないました。

これは地元マニラ・ロータリークラブの協力を得て消防車の給水車を利用し、スラムの子供たちを皆さんからいただいた石鹸やシャンプーを使い体や髪の毛を洗ってあげる活動です。スラムの子供たちは日本のように毎日きれいな水を使って体を洗うことができません。汚水や雨水を貯め、時にはスコールが降ると天然のシャワーとして一斉に外に飛び出して体を洗うほどです。また、石鹸は大変貴重な生活物資のため頻繁に使うことはできません。そんな彼らのために今回看護師、介護士を中心とし高校生もお手伝いをしながら当初要諦していた200名を大幅に超える446名の子供たちを洗うことができました。2つの簡易シャワーブースを作りましたが長蛇の列ができみんなともうれしそうに久しぶりのシャワーを楽しんでいました。

感謝を込めて

・今年も皆様の温かいご支援のおかげで素晴らしい活動になりました。今年で13回目の活動となり、現地参加者の皆さん、特に高校生たちも年々増え益々ハロアルの輪が広がりを見せております。これからも私たちは皆さんが歯ブラシ1本に込めてくださる優しさの心をしっかりと彼らに届け、誠心誠意恵まれないスラムの人たちのために頑張っていきます。今後ともどうかご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

物資配付

| | 2月8日 | 2月11日 | 計 |
|--|------|-------|---|
|--|------|-------|---|

| | | | |
|----------|-------------------------|-----|-----|
| 物資配付 | 80 | 500 | 580 |
| (物資配付内容) | ハブラシ8本・石鹸2個・タオル2枚・お米2kg | | |

医療奉仕活動

| | 2月9日 | 2月10日 | 計 |
|---------|------|-------|--------|
| クリーニング | 142 | 291 | 433 |
| 保存 | 48 | 48 | 96 |
| 抜歯 | 171 | 290 | 461 |
| 義歯 | 11 | 14 | 25 |
| 耳鼻科 | 52 | 58 | 110 |
| シャワーブース | 186 | 260 | 446 |
| 投薬 | | 1 | 1 |
| その他 | | 5 | 5 |
| 合計人数 | 610人 | 967人 | 1,577人 |